

目次

凡例	
序論	1
一、研究目的	1
二、時期区分	8
三、先行研究の整理と検討	11
(1) 戦前台湾人留学生に関する研究	
(2) 学生・立身出世に関する研究	
(3) 戦前高等教育制度に関する研究	
(4) 知の構築と実践に関する研究	
(5) アジア知識人の交流・連携に関する研究	
四、研究課題と研究方法	23
(1) 文部省と台湾総督府の台湾人留学生政策について	
(2) 大正期までの台湾人留学生の分類と特徴について	
(3) 留学生の生活について	
(4) 留学生の知の構築と実践について	
(5) アジア知識人の連携について	
五、初出一覧	27
第一部 台湾人「日本留学」の歴史的展開	31
第一章 「日本留学」の時代背景	33
第一節 「内地日本」に留学する理由	34
一、科挙制度の廃止と書房教育の衰退	
二、日本植民地統治下の台湾人教育	
三、「小学—中学—高等学校—大学」という進学ルートの不連続	
第二節 台湾人留学生の「内地渡航」と植民地青年の就職問題	53
一、台湾人留学生の内地渡航	
二、植民地知識青年の就職	
第二章 台湾人留学生に対する政策	61
第一節 初期の日本留学	61
一、警戒される台湾人の日本留学と希望者の選抜	
二、早まる地方名士の子弟の留学	
三、教会斡旋による留学	
四、台湾協会（東洋協会）の「半官半民」学資補助制度	

五、主流としての小中学・実業学校留学	
第二節 大正期までの台湾人留学生関連条例	79
一、文部省外国人留学生条例	
二、国語学校語学部国語科留学生支給規則	
三、台湾総督府直轄学校留学生規則	
四、台湾総督府外国留学生規程	
五、台湾人留学生の管理・監督	
第三節 台湾総督府の代行機関	93
一、台湾協会の留学生監督補助事業	
(1)台湾協会の創立とその事業	
(2)学資補助と進学斡旋と留学生管理	
二、留学生監督とその権限	
三、高砂青年会	
第二部 在京台湾人留学生	109
第三章 在京台湾人留学生の留学生活	111
第一節 留学生を取り巻く東京の社会世相	111
一、文明中継地としての東京	
二、「上京遊学」の経費	
三、下宿屋と学生風紀の紊乱	
四、台湾人留学生の居住形態と居住地域	
五、留学生生活に潜む民族差別	
第二節 台湾総督府官宮寄宿舎高砂寮の位置づけ	126
一、高砂寮設置の背景と寮名	
(1)設置背景	
(2)台湾人留学生寄宿舎の命名	
二、高砂寮の性格と特徴	
(1)高砂寮の機能と所在	
(2)寮規則とその特徴	
三、舎監と副舎監の選任について	
四、交流拠点としての高砂寮	
第三節 在京台湾人留学生の出身地域	144
第四章 私立大学専門部と専門知識の獲得	147
第一節 私立専門学校の「大学昇格」	147
一、「学部・大学予科・専門部」という三位一体型	
二、大学令の公布と大学生の増加	
三、私立大学の東京集中	
第二節 主要高等教育機関の受け入れ	155
一、高等教育機関の入学資格	
二、「専門部か学部か」の選択	

三、主要進学先

- (1) 専門部への進学
- (2) 医科
- (3) 美術
- (4) 中央大学専門部

第三節 早稲田大学と近代台湾……………169

一、早稲田大学機関誌のなかの台湾

- (1) 『早稲田学報』
- (2) 『早稲田政治経済学雑誌』

二、「政治経済科の早稲田」へ

三、台湾人留学生の専門知識の獲得と実践

四、早稲田大学教員と近代台湾の諸啓蒙運動

- (1) 台湾人主宰の機関誌への寄稿
- (2) 台湾議会設置に関する教員の論考

第四節 明治大学と近代台湾……………195

一、『明治法学』・『明治学報』・『明治大学学報』のなかの台湾

二、「大学令」公布前後の明治大学専門部

- (1) 「大学令」施行前と施行後
- (2) 明治大学経緯学堂からみる台湾人留学生の進学難

三、「法科の明治」へ

四、台湾人留学生の専門知識の獲得と実践

- (1) 専門部法科と政治経済科のカリキュラム
- (2) 「知の実践」としての諸啓蒙運動への参加

五、明治大学教員の台湾論

六、弁護士布施辰治・古屋貞雄と台湾労農運動

- (1) 布施辰治と台湾
- (2) 古屋貞雄の渡台

第三部 台湾人留学生と近代台湾の啓蒙運動……………227

第五章 大正デモクラシー期の台湾人留学生……………229

第一節 台湾人留学生の社会的役割……………230

- 一、知識の翻訳者
- 二、政治結社の旗手

第二節 台湾人留学生の講演による「知の伝播」……………236

- 一、知識啓蒙としての各種講習会
- 二、一般民衆を対象とする地方巡回講演会
- 三、留学生の文化巡回講演

第三節 雑誌にみる台湾人留学生の「知の実践」……………245

一、台湾人主宰の『台湾青年』と『台湾』

- (1) 『台湾青年』の創刊

(2) 早稲田大学台湾人留学生の論考

(3) 明治大学台湾人留学生の論考

二、日本人と朝鮮人主宰の機関誌

第六章 在京台湾人とアジア知識人とのかわり

第一節 契機としてのキリスト教……………271

一、富士見町教会牧師・植村正久の台湾伝道

二、植村の台湾認識

三、植村主宰の『福音新報』のなかの台湾

四、『台湾青年』と『台湾』にみるキリスト教系知識人の寄稿

五、対照的な存在としての吉野作造と田川大吉郎

(1) 雑誌からみた吉野作造の台湾認識

(2) 田川大吉郎と近代台湾の政治運動

第二節 初期社会主義者・安部磯雄と台湾……………302

一、富籤発行への反対

二、一回目の台湾訪問

(1) 野球親善試合と講演会

(2) 台湾養女制度への関心

三、教育と自治の関係性

四、二回目の台湾訪問

(1) 巡回講演会

(2) 台湾最初の地方選挙への批判

第三節 佐野学と在京台湾人留学生……………314

一、ブルジョア・小ブルジョア階級運動の限界

二、被抑圧民族の青年たちとの交流

第四節 機関誌にみる在京アジア知識人の連携……………318

一、台湾人とアジア知識人との連携における蔡培火の役割

(1) 『台湾青年』への執筆と「議会設置への署名」の斡旋

(2) 諸機関誌にみる蔡培火の論考

二、アジア知識人連携の一具現としての『亜細亜公論』

(1) 『亜細亜公論』の創刊とその特徴

(2) 『亜細亜公論』の執筆陣

三、諸機関誌にみる在京朝鮮人との連携

(1) 在京朝鮮人主宰の諸機関誌

(2) 『革新時報』と『青年朝鮮』

(3) 『亜細亜公論』と『大東公論』

四、コスモ倶楽部からみた在京台湾人と朝鮮人との接触

五、在京中国人とのかわり方

(1) 結社を通じて

(2) 『亜細亜公論』からみる直接的・間接的な連携

結 論 近代台湾における「法律青年」と「政治青年」の誕生	355
参考史料・文献	367
あとがき	395
人名索引	400
付 録	411